

第46回 平成29年

新潟県指定無形民俗文化財

三条かぐら鑑賞会

日時 10月1日(日)午後1時開演
会場 三条市中央公民館大ホール



主催 三 条 市
三条神楽保存会

プログラム

- | | | | |
|---|-----------|--------------|-------|
| 1 | 開会のことば | 三条神楽保存会会長 | 佐藤 力 |
| 2 | 主催者あいさつ | 三条市長 | 國定 勇人 |
| 3 | かぐらの演舞 | (解説) 神明宮禰宜 | 三上 正行 |
| | (1) 宮清の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| | (2) 地久楽の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| | (3) 悪魔祓の舞 | 保内 | 小布勢神社 |
| | (4) 花献の舞 | 田島 | 諏訪神社 |
| | (5) 五穀捧の舞 | 大崎 | 中山神社 |
| | (6) 五穀捧の舞 | 保内 | 小布勢神社 |
| | (7) 鳥形の舞 | 三条 | 八幡宮 |
| | (8) 福神遊の舞 | 一ノ木戸 | 神明宮 |
| | (9) 奉幣の舞 | 田島 | 諏訪神社 |
| 4 | 閉会のことば | 三条市市民部生涯学習課長 | 金子成郎 |

1 みやきよ 宮清の舞

伶人一人で舞う。天照大神が須佐之男命すきのおのみことの乱行を怒り、天の岩戸におかぐれになられたその時、天兒屋根命あめのこやねのみことが大神のお出ましを願うための祭りを
行うべく、先ず大神なきあとの不浄を清めようと修祓の行事を行ったということに由来する舞で、神楽殿、参拝の人々の罪、穢れを祓い清める意味のものです。

【囃子】三拍子 【装束】毛頭(小)・狩衣 【面】翁 【採物】大麻

塚野目 白山神社



2 ちきゅうらく 地久楽の舞

塚野目 白山神社



天地長久を祝して天忍日命あめのおしひのみことが天岩戸の大前で、天地とともにみんなの安全を祈ったことに由来する舞です。

また、この舞は能狂言の「三番叟」さんぱんそうの装束で鈴をもって舞う形が、それに似ていることから、俗に「さんばさ」ともいわれています。

【囃子】大満
【装束】大烏帽子・子大毛頭・金欄大狩衣・大口
【面】悪魔祓面
【採物】鈴

3 あくまばらい 悪魔祓の舞

天孫の降臨に先立ち、フツヌシノミコトが中津国の荒ぶる神を打ちしずめるために努力されたことにちなんだ舞で、神刀の威力で邪気を祓い、世の中の安泰を祈るものです。

フツは、刀剣の鋭く物を立ち切る音の擬声語で、諸々の悪を刀剣で断ち切ることを象徴した舞です。

【囃子】悪魔祓拍子

【装束】金欄法被差袴毛頭（大）

【採物】 剣

保内 小布勢神社



4 かけん 花献の舞

稚児4人舞です。時の花を神に捧げる意味のものと思われていますが、

にぎのみこと かささ
邇々芸命を笠沙の岬にお迎えして、命の苦労をおなぐさめ申したことに由来する舞であるとも伝わっています。

【囃子】花献拍子

【装束】立鳥帽子又は天冠
狩衣・差貫袴

【採物】時の花の枝1人2本ずつ

田島 諏訪神社



5 ^{ごこくささげ}五穀捧の舞

大崎中山神社

6 ^{ごこくささげ}五穀捧の舞

保内小布勢神社

二人で舞います。ウブスナノカミをはじめ神々の加護によって、今年も茄穀豊穰。めでたく収穫も終わったので、神々に五穀の初穂を奉り、豊作のよろこびを感謝する舞です。

【囃子】シヤギリ 【装束】狩衣・切袴又は差貫通・風折烏帽子又は引立烏帽子 【採物】三宝・鈴



7 ^{とりかた}鳥形の舞

天岩戸の変の折、思金の神の計により夜明けを告げる常世の長鳴鶏を鳴かしめられた。天照大神は岩戸の中にあつて、朝を告げる長鳴鶏が鳴き、神々が笑いさざめていることを不審に思われ、岩戸の扉を少し開けて外をのぞかれようとした時に、手力男の命が岩戸のすき間に手をかけ、扉を開き大神をお出し申し上げた。

この舞は、その故事にならい、常世の長鳴鶏を形どって舞われる舞で、動作には鶏の生態をそのまま写し出している所が多い。

【囃子】鳥形拍子 【装束】鶏形頭・毛頭・狩衣・差貫・脚絆 【面】翁 【採物】大麻

三 条 八 幡 宮



8 ^{ふくじんあそび}福神遊の舞

恵比寿、大黒の舞です。互いに失敗を無言劇風にからかい合いながら舞は進められ、最後に恵比寿が大きな鯛を釣りあげ、大黒も大いに協力し喜び合います。

恵比寿が大きな鯛をかかえて退場すると、大黒は拝観者に菓子を撒いて退出します。

【囃子】三拍子・大黒一人になった時は榊拍子 【装束】大黒一大黒頭巾・狩衣・奴袴 恵比寿一風折烏帽子又は侍烏帽子・狩衣・奴袴・白脚絆・禪

【面】大黒一大黒面 恵比寿一恵比寿面 【採物】大黒一槌・袋・扇子 恵比寿一釣竿・扇子

一ノ木戸 神 明 宮



9 ^{ほうへい}奉幣の舞

田 島 諏 訪 神 社

天岩戸の変の折天香山の五百

つまさかき
津真賢木を根こぎにして、その

したえだ しろにぎて あおにぎて
下枝に白和幣と青和幣をかけたれ、

あめのこやねのみこと
天児屋根 命 が、天照大神が岩戸か
らのお出ましを願う祝詞を奉上し
た故実に基づく舞です。

なお、この舞は岩戸開きの舞の
最後に舞われるものですが、これだけを取り出し、その日の舞列の最後に舞われてい
ます。

【囃子】羽返拍手 【装束】狩衣・切袴・立烏帽子 【面】奉幣面又は素面 【採
物】鈴・幣



宝剣作の舞

三 条 神 楽 の 由 来

三条神楽は、出雲神楽系統に属する神楽です。出雲神楽は、岩戸開き神話を中心とし、その他古くから出雲大社に伝わる神事や、神社の縁起を新たに取り入れ演じられた神楽です。その出雲流の神楽が、山陰から北陸を経て三条の地に伝えられたものと考えられます。

江戸時代の文化8年（1811）には、三条（八幡宮）で神楽が舞われていたことが、古記録に残っていることから、その起源はさらに遡るものとみられます。

ふつう5舞か7舞を伝えるものが多いなかで、三条神楽は32舞も保存されていて、たいへん珍しいため、昭和38年3月、県の無形民俗文化財に指定されました。

このようにすぐれた郷土芸能を、広く市民のみなさんから知っていただき、後世に伝えるため、三条市および三条神楽保存会では、後継者の育成に努めています。研修会や講習会などをおして研鑽を重ねる一方、ビデオや映画に収録したり、本にまとめたりして、当市の伝統芸能の保存をすすめています。

新潟県指定
無形民俗文化財

三条神楽32舞の演目

1 先稚児の舞	9 鳥形の舞	17 天川の舞	25 杵樹の舞
2 宮清の舞	10 羽返の舞	18 奉幣の舞	26 宝剣作の舞
3 悪魔祓の舞	11 岩戸開の舞	19 小弓遊の舞	27 深山錦の舞
4 鎮護鉾の舞	12 地久楽の舞	20 四神の舞	28 神勇の舞
5 久奈戸の舞	13 稲田宮の舞	21 五行の舞	29 五ツ刀の舞
6 五穀撒の舞	14 榊の舞	22 大鉾の舞	30 三座返の舞
7 五穀捧の舞	15 花献の舞	23 天孫降臨の舞	31 宮司舞
8 太平楽の舞	16 福神遊の舞	24 末広の舞	32 乙女舞